

第3回「文化首都・京都」推進本部会議 市長訓示

昨年4月の第1回推進本部会議で、私から「文化を基軸とした市政運営」の徹底をお願いした。とりわけ京都そして日本が誇る文化は、地域固有の生活文化である。生活文化を基盤に、京都市政のあらゆる分野で、文化を基軸として取組を進めていかねばならない。観光、伝統産業、福祉・社会包摂、子育て・教育、環境、都市づくり、歩くまち京都。各局区等において、あらゆる政策分野で、着実に文化を基軸とした多様な事業が創出されていることを実感している。例えば、京都市立芸術大学の移転は、交流と賑わいを生み出し、京都駅東部が文化芸術創造の新たな“火床”となり、京都全体のまちづくりに寄与することが期待されている。持続可能な都市の発展を目指し、京都国際映画祭をはじめとする民間の文化事業にも取り入れられているSDGsの視点や、レジリエント・シティの取組も踏まえることが必要である。

また、2021年度の文化庁の京都への全面的な移転に向けて、10月から「新・文化庁」が発足したところであるが、文化庁の機能強化が図られ、移転に向けた準備が着実に進められている。文化庁移転を見据えて、京都のまちづくり、京都市政に文化の視点から横串を刺し、魂を込めていかねばならない。文化で日本中を元気にするとともに、文化で世界から尊敬される日本、品格のある日本にするために、京都はどのような役割を果たすべきか。また、文化庁が京都に移転して本当によかったと日本中、世界中の人々に実感していただくために、我々が果たすべき責任は非常に大きい。

そして、2019年から2021年にかけて、ICOM京都大会、東京オリンピック・パラリンピック、ワールドマスターズゲームズ2021関西と、国際会議や国際スポーツイベントが目白押しである。ただイベントを行うだけでなく、文化を基軸にあらゆる政策と融合させ、世界中の関心が日本・京都に集まるこの時期に、京都から日本文化の魅力を効果的に世界へ発信することを肝に命じていただきたい。

そこで、私から3点、改めてお願いする。

1点目は、「京都から日本の文化を世界へ発信すること」である。

京都文化力プロジェクトは、オール京都で多彩な文化・芸術を国内外に発信していくことにより、京都の文化を通じて、国内外の人々との出会いと多様な交流、新たな創造を生み出すとともに、一過性ではない将来に向けたレガシーを生み出すことが使命である。しっかりと連携して進めていただきたい。また、2020年までに、オリンピックは「東京」で、日本文化は「京都」という世界的な流れを作っていきたい。その流れをしっかりとワールドマスターズゲームズ2021関西につなげていく必要がある。

そのためにも、京都だけでなく日本全国としっかりとつながり、京都から日本の文化を世界へ発信することを意識してほしい。

2点目は、「分野横断的な施策に「文化の視点」で横串を刺し、魂を入れること」である。

このことを今一度確認し、各局区の施策に文化の魂を入れるとともに、新たな担い手の育成に

力を入れてもらいたい。

文化と観光，文化と経済という点で，デービット・アトキンソン氏が著書で二条城を非常に厳しく批判されていたが，今では二条城を新しい文化財活用のモデルであると評価し，発信していただいている。文化財の付加価値を創出する取組を積極的に行った結果，入城者数が大幅に増え，入城料等の収入も増えている。その収入を文化財保存の財源とすることで修復等に伝統工芸の匠の技が生かされるという好循環が生まれている。もちろん，二条城の入城者増加は，地下鉄利用客の増加にもつながっており，ここでも文化と経済の好循環が生まれている。

二条城の例を申したが，健康長寿の取組，災害に強いまちづくりの取組，環境問題，働き方改革，地域コミュニティの活性化など，あらゆる分野で文化の視点を取り入れてもらいたい。

3点目は，「生活文化を基盤に文化事業を「じぶんごと」「みんなごと」として地域の皆様に進めていただくこと」である。

市民や民間事業者が行っている文化事業へ支援をし，その協働モデルを京都市から作っていく。とりわけ民間事業への支援をお願いしたい。京都市が主催となり予算化した事業を熱意をもって実施するのは当然のことだが，それと同様に，民間の事業を支えていただきたい。

2013年以来，毎年京都を舞台に開催されている「KYOTO GRAPHIE 京都国際写真展」は，京都のブランド力や都市格向上に著しく貢献している取組をオール京都で顕彰している「京都創造者賞」に開催6年目にして選ばれた。2013年の開始当初は数々の御苦勞もあったが，それを乗り越え，回を重ねるごとに好評を博し，写真と同時に，日本の文化の素晴らしさを多くの国内外の人々に発信していただいている。

また，京都市の姉妹都市であるパリ市発祥の「ニューイ・ブランシュ（白夜祭）」に着想を得て，アンスティチュ・フランセと京都市が毎秋開催する一夜限りの現代アートの祭典「ニューイ・ブランシュ KYOTO」も今年8回目を迎えるが，年々多くの方に御参加いただいております。今年10月5日には過去最多の市内42会場で実施される。

文化首都・京都ならではの「市民力」「文化力」「地域力」を活かして，市民との共汗・融合により政策を推進していただきたい。

以上3点，よろしく申し上げます。